



▼田口の森川健康堂(株)研究棟敷地内に建設された乙女第2団地26戸



8月26日(金)現在までに、白旗仮設団地(白旗グラウンド用地)90戸、乙女第1団地(宇城鉄筋団地付近)48戸、乙女第2団地(森川健康堂(株)研究棟付近)26戸、白旗第2仮設団地(白旗グラウンド駐車場用地)19戸、乙女第3仮設団地26戸が完成および入居済みです。乙女第3仮設団地の5戸と白旗第3仮設団地(塔ノ木有地)14戸については、現在建設を進めており、9月上旬の完成・入居を目指しています。

安心して暮らせる住まいを

被災者向け応急仮設住宅への入居が進む

8月22日(月)から町では乙女第3仮設団地(グリーンセンター用地)31戸の入居手続きを開始しました。4月に発生した熊本地震の影響により、住宅を失い自らの資力では住宅を確保できない被災者のために、簡単な住宅を仮設し、一時的な居住の安定を図る「被災者向け応急仮設住宅」。本町では、事前の入居希望調査によって228戸の建設および入居を進めています。

8月26日(金)現在までに、白旗仮設団地(白旗グラウンド用地)90戸、乙女第1団地(宇城鉄筋団地付近)48戸、乙女第2団地(森川健康堂(株)研究棟付近)26戸、白旗第2仮設団地(白旗グラウンド駐車場用地)19戸、乙女第3仮設団地26戸が完成および入居済みです。

自然に親しみはぐくむ心

野外キャンプ「あつまれ子どもたち」

8月4日(木)～5日(金)竜野福祉ふれあいセンターで、野外キャンプ「あつまれ子どもたち」が開催されました。

1泊2日のキャンプを通して、自然に親しみ共同生活を行うことで団体行動の大切さを体験することなどを目的に、甲佐町青少年健全育成町民会議(奥名克美会長)と町教育委員会が主催。参加した24人の小学生は、竹のはしと器づくりに挑戦したり竜野川での水遊びを体験したりして、自然の中での野外体験を満喫しました。



▲竹をなたで割ってはしと器づくりに挑戦する子どもたち



◀地域の指導員などの指導で勉強に励む生徒たち

生徒の学力向上を目指して

8月8日(月)甲佐中で甲佐町未来塾が開塾

8月8日(月)甲佐中学校(井上幸三校長231人)で、「甲佐町未来塾」が開塾しました。同塾は、中学生へ学習機会を提供し学力および地域の教育力の向上を図ることを目的として教員を希望する大学生、元教員および学習塾などの民間教育事業者など幅広い地域の協力を得て、町教育委員会が主催。同中学生134人が学習支援の調整役を担う「コーディネーター」を中心に、学校や学習支援員と連携しながら、数学と英語の2教科に取り組みました。

参加した生徒は、「丁寧に教えてくれた」「英語が解りやすかった」と感想を述べました。

姿勢良く元気に歩こう

ノルディックウォーキング教室が開催

8月27日（土）白旗仮設団地でノルディックウォーキング教室が開催されました。

同教室は、町民の健康の保持増進と体力づくりを目的として町教育委員会が主催。同団地の入居者を対象に毎月第4土曜日に開催されます。

1回目の教室では、講師の赤星裕子さん（有安区）がノルディックポールを持った歩き方をレクチャー。参加者8人は、姿勢良く歩くことで普通のウォーキングより消費カロリーの上がる歩き方に挑戦しました。



▲ノルディックポールを使う歩き方を学ぶ参加者たち



▲1歳児教室に訪れた赤ちゃんに触れ合う生徒

子育て体験で学ぶ命の重み

8月5日（金）「ハロー Baby！」を開催

8月5日（金）町総合保健福祉センターで、「ハローBaby！」が開催されました。同教室は、思春期の中学生に赤ちゃんとの触れ合いを通じて親子の愛情、子育ての楽しさや苦勞、命の重さなどを考えてもらうことを目的に、同センターが主催。甲佐中学校（井上幸三校長231人）の生徒28人が参加した体験教室では、1歳児教室で訪れた赤ちゃんたちとの触れ合いや保護者と交流しました。身体測定のお手伝いで赤ちゃんの着替えや抱っこを体験した中学生は、自由に動いたり大声で泣きだしたりする赤ちゃんに悪戦苦闘しながらも子育ての楽しさや大変さを学びました。

本町の早期の復興を目指して

第1回甲佐町震災復興計画策定委員会を開催



▲町生涯学習センターで開催された第1回甲佐町震災復興計画策定委員会のワークショップでグループごとに意見を出し合う委員たち

8月23日（火）町生涯学習センターで、第1回甲佐町震災復興計画策定委員会が開催されました。

同委員会は、4月に発生した熊本地震によって被災した方の生活再建に向けた取り組みと同時に、将来にわたって安心・安全な生活環境を確保し、より良いまちづくりを強力に推進することを目的とした「甲佐町震災復興計画策定基本方針」に基づき、町が設置。被災地の早期の面的な整備方針や将来への道筋を示す「甲佐町震災復興計画」を策定するために、一般公募で選ばれた町民と町職員35人で構成されています。

第1回は、本町の震災後における課題についてワークショップを実施。5つのグループに分かれて震災において感じたことや今後本町に必要なことなどなどの意見を出し合いました。

「復興計画」の計画期間は平成28年度から同30年までの3年間。住民アンケートや被災者との意見交換会などを通じ、多様な町民意見を反映させた計画を平成28年11月ごろに策定する予定です。